



モエク・カムイ 121

● モエク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。

July 2024

ASAHIYAMAZ NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

もくじ

ぼくは動物大使 その82	
北海道が誇るエリート家畜 ヒツジ	1.2
特集 どうぶつ達の恋の季節～発情期の行動～	3.4
飼育研究レポート	5
オオカミの生息地 ～イエローストーン国立公園に行ってきました～	
2024年度 新人スタッフ紹介	6
主なできごと・編集後記・飼育動物数	7



旭川南高等学校



旭川水嶺高等学校



旭川商業高等学校



旭川西高等学校



旭川藤星高等学校

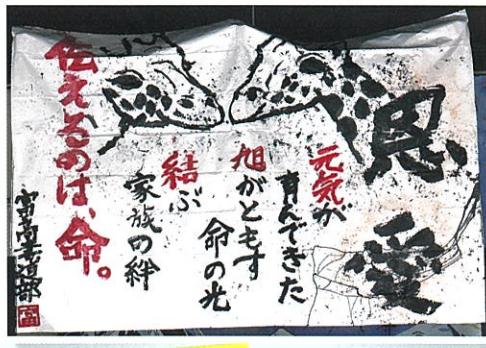
動物墨画
パフォーマンス
作品紹介



旭川龍谷高等学校



旭川高等支援学校



富良野高等学校





ぼくは動物大使 その82

ヒツジ

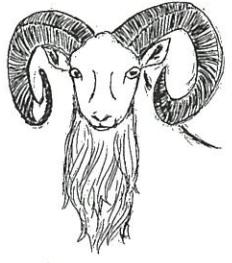


ヒツジ

学名 *Ovis aries*
分類 偶蹄(ウシ)目
ウシ科ヤギ亜科
ヒツジ属

最も古い家畜の1つであり、その歴史はウシやウマより早い約8千年前～1万年前といわれる。はじめは野生のヒツジを飼い慣らし、肉や乳、下毛(ウール)を主に利用していたが、少しずつ品種改良され、温厚な性格で一年中ウールだけが伸び続ける今のヒツジになった。今では人間が毛を刈らなければ、夏を乗り越えられない。また、寒さや乾燥に強いためモンゴルなどの遊牧民には古くから重宝されている。

野生のヒツジは世界で最も広く分布する蹄のある動物で、険しい山岳地帯や森林を走り回ることができる能力を持ち、すんでいる場所によって角の形や体の大きさ、毛の長さが違っている。



野生のヒツジ

野生のヒツジは、多種多様で分類がかなり難しいが、大きく4つの種類に大別できるとされ、西アジアとアフガニスタンにすむユリアル、ヨーロッパ・小アジア・西ペルシャのムフロン、中央アジアのアルカリ、北アジアと北アメリカのビッグホーンがあげられる。このうち、現在の家畜のヒツジは、ユリアルを祖先とするものが最も多いといわれている。

毛

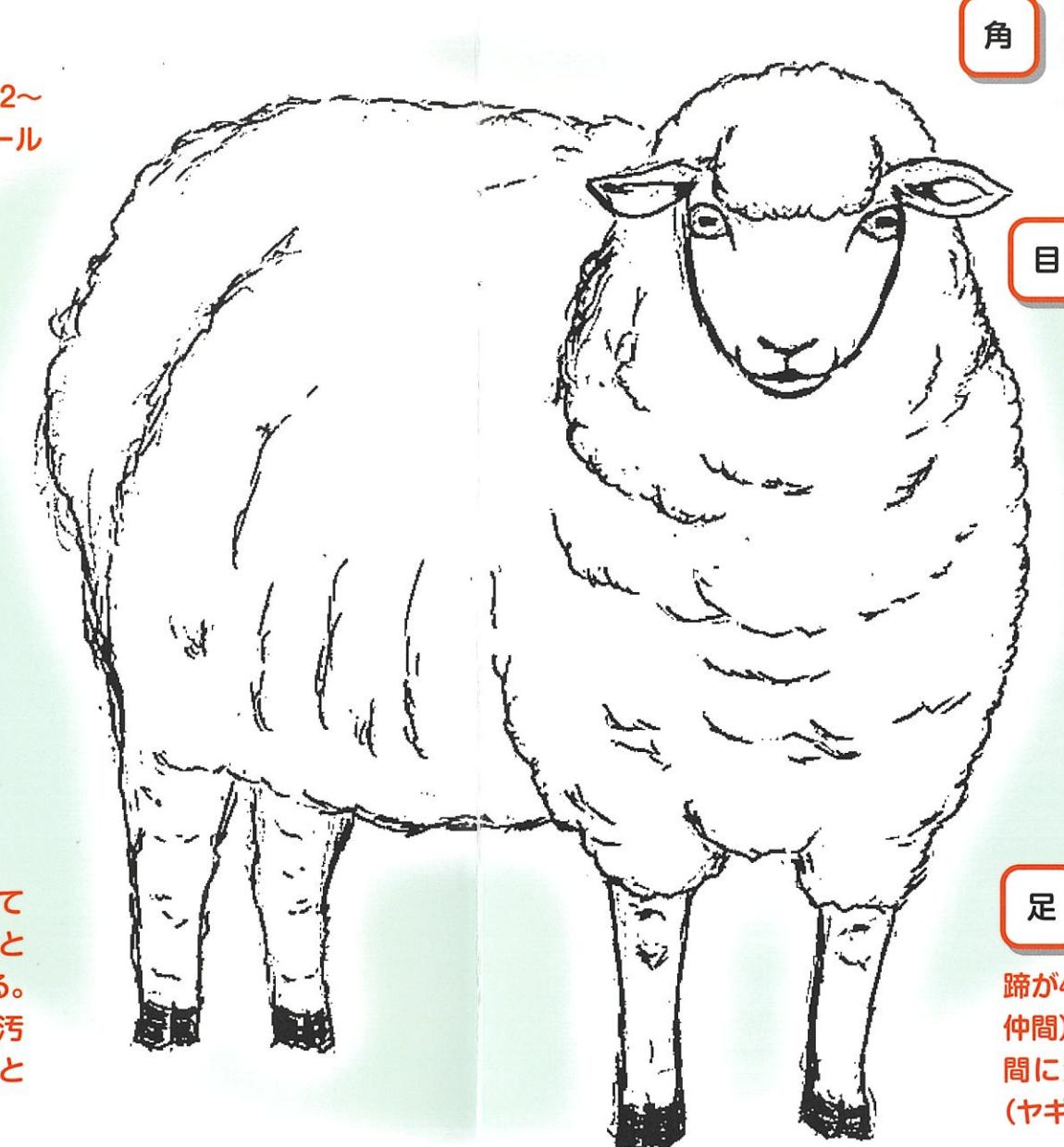
1年中伸び、毎年2～4キロ程度のウールがとれる。

体

最大で100kgを超える個体もいるがウシの仲間(偶蹄目)では軽い方である。

尾

長く垂れ下がっている。ヤギはピンと立ち上がっている。飼育下では糞で汚れるため切ることも多い。



角

野生は角があるが、家畜のヒツジはほとんどの種類で退化した。

目

角膜(黒目)が細長くなっている、視野がかなり広い。

口

上の前歯がない。また、ヤギとの違いはあごひげがないことである。

足

蹄が4つの偶蹄目(ウシの仲間)。足のつけ根や蹄の間に油の分泌腺がある(ヤギにはない)。

旭山動物園の個体紹介

①ユノ(♀/生年月日不明)



額の毛がチャームポイントの最年長。かなり警戒心が強い。

②イツカ(♀/2023年2月生まれ)



冬は茶色い毛だったが毛刈りしたら、下毛が黒色。足先は白だが左前足1本だけ黒い。

③リッカ(♀/2023年8月生まれ)



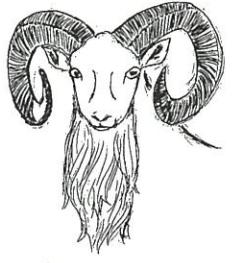
まだ模様が特徴で、最初は警戒心が強かったが最近は人なつっこくなつた。

④ナツメ(♂/2024年2月生まれ)



イツカのこども。ウシに似ているが、毛が親に似て茶色くなってきてる。親と違い足先は全部白い。

北海道とヒツジのふかーい関係



▲ユリアル

～羊毛とジンギスカン～



▲セーター



▲生ラムジンギスカン

大正時代1918年に札幌と滝川に種羊場が設置され、北海道は牧羊の重要な拠点となり、戦前戦後の日本の羊毛の需要を支えてきた。しかし、1960年頃から安価な羊毛が大量に輸入されるようになったため、北海道は羊肉生産への転換を進めることになり、めん羊増殖基地を道内4カ所に設置した。さらに当時まだ目新しかった肉用種「サフォーク」の輸入するなどを力を入れ、帯広畜産大学でも畜産学科の充実が進み、市町村も独自に飼育するなどの取組が続けられた。この努力が実を結び、北海道でジンギスカンとして羊肉が普及するようになった。現在では北海道が全国1位の約11,000頭ほどの羊を飼育しており、肉は主に飲食店(首都圏や一部道内)に流通している。ヒツジはニワトリや豚と違い、自然環境に溶け込んだ飼育を必要とするため、草資源や土地に恵まれた北海道の環境は最適といえるだろう。

特集

どうぶつ達の恋の季節

～発情期の行動～

1年を通して安定した食べ物があり、気候も安定している熱帯などの生息環境では決まった発情期が無く、一年中繁殖可能です。でも実は、ほとんどの動物には発情期があり、特有の行動（ディスプレイ）でペアの絆を深めたり、羽毛の色が変化したり、メスを巡ってオス同士が闘争する動物もいます。

今回は動物たちの「恋の季節」に見られる変化をご紹介します！

インドクジャク

発情期のオスは上尾筒と呼ばれる飾り羽を広げてメスに求愛する。また、オス同士は蹴爪で激しく闘争する。目玉のような模様の数が多いほどメスに好まれる、という。



ホッキョクグマ

ふだんは単独行動のホッキョクグマだが、発情期にはオスとメスが惹かれて合って接近し、交尾する。

発情期が終わると単独行動に戻る。



フラミンゴ

オス・メスが向かい合って求愛ディスプレイを行い、絆を深める。

交尾はオスがメスの上に乗り、オスが羽ばたきながら行う。



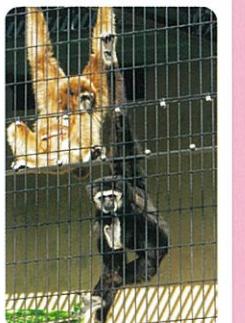
繁殖行動を動画で見てみよう！

スマートフォンでQRコードを読み込んでね！

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

シロテテナガザル

決まった繁殖期は無い。オスとメスが大きな声で鳴き交わしを行ってペアの絆を深める。遠吠えは数キロメートル先まで届き、唄声のように聞こえるため、「デュエット」と称されることもある。



恋どうぶつも必死だ。



エゾシカ

オスは秋になると角が完成し、オス同士激しく闘う。縄張りを主張する発情鳴き（ラッティングコール）をする。闘争に勝ったオスがメスと交尾する権利を得る。繁殖期が終わり、春になるとオスの角は落ちてしまう。



オシドリ

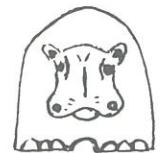
発情期のオスは派手な羽毛になり、銀杏羽（いちょうばね）と呼ばれる飾り羽が発達する。

交尾が終わるとオスは去り、ペアは解消する。オシドリ夫婦は一年限りのペアなのだ。

紹介した以外の動物でも、発情期にはさまざまな行動や体の変化がみられます。

繁殖期にしか見られない姿を、動物園で見ることが出来たらラッキーです。

動物達の「恋の行方」にも注目しながら観察してくださいね！



飼育研究レポート

オオカミの生息地
～イエローストーン国立公園に行ってきました～



バイソン、グリズリーベア、オオカミ、エルク、猛禽類など多くの野生動物が暮らしています。

この時期メスのバイソンは子どもを連れ群れで行動していました。

夏は食べものがありバイソンが元気なのでオオカミは襲いに来ません。



グリズリーの親子
オスを恐れ森の中よりは安全な道路の近くによくいる

道路にはたくさんの見物客がいました。「グリズリーが通りたがっているから車をどかして」と注意しあっていました。

イエローストーン国立公園ではオオカミが全滅し、恐れる相手がいなくなったエルクが大地を踏み荒し草木を食べ尽くしたため多くの動物が食べ物やすみかを失い生態系が崩れたという過去があります。20年ほど前にオオカミを再導入し今では自然が戻ってきたが、良いことばかりではなく家畜被害などの問題も起こっています。

日本にもニホンオオカミとエゾオオカミの2種類のオオカミが生息していましたがどちらも120年ほど前に絶滅しました。

オオカミに限らず生態系の一部を人が摘み取ってしまうことでバランスを崩し当たり前に存在していた景色も見られなくなってしまうことがあります。

実際にオオカミの生息地を訪れ、オオカミだけではなく全ての動物が関わり合いながら生きている様子を目の当たりにし、この場所で自然と向き合いながら生きていく動物たちのたくましさと、それと隣り合わせで存在する人間社会の現実を知ることができました。今回の旅で感じたことをこれからガイドなどに生かしていくたいと思います。



バイソンの足を運ぶオオカミのオスリーダー

バイソンの後を悠々と通り過ぎていく。死んだ動物の死骸はオオカミ、グリズリー、猛禽類などあらゆる生き物の生きる糧になります。



オオカミの巣

素人には見つけられないような場所でした。アルファオスが肉を持ってきたけれど子どもは寝ていました。子育て中は巣穴が見つかるといけないため遠吠えもほぼ行われません。

(オオカミの森担当:原田佳)

2024年度 新人スタッフ紹介

管理部門の主幹であった田村哲也が2024年4月から園長に就任しました。皆さまよろしくお願いします。

新園長 田村 哲也 出身地 北海道旭川市 / 好きな動物 イヌ / 趣味 ドライブ



新園長からのあいさつ

この度、2024年度から園長となりました田村です。旭山動物園での勤務は6年目を迎えます。これまで、管理部門に身を置いていましたが、4月からは坂東統括園長とともに「2人3脚」のかたちで園の運営を担っております。動物園に期待する役割は人それぞれ多様です。それだけ動物園には可能性があるのだと思います。皆さまの期待に応えながらも、メッセージを「伝える」ことにこだわり、これまでの旭山動物園の歩みをさらに前進させてまいります。どうぞよろしくお願いします。

また、新たに以下の2名が飼育スタッフ正職員として加わりました。皆さまも2名の成長を見守っていただけすると幸いです。



新園長 田村 哲也 【担当: 北海道産動物 (リス・モモンガ・野鳥)】

出身地 北海道室蘭市

好きな動物 イヌ・オオカミ

趣味 キャンプ・編み物

旭山動物園の印象 飼育スタッフみんなが、マルチに何でもできすごい! (木工や看板書き等)

意気込み 北海道にすむ動物の素晴らしいところを伝えられるように、日々熱意を持って頑張っていきます。



新園長 田村 哲也 【担当: 北海道産動物 (リス・モモンガ・野鳥)】

出身地 北海道室蘭市

好きな動物 イヌ・オオカミ

趣味 キャンプ・編み物

旭山動物園の印象 みんな楽しそうに仕事をしている

意気込み いろいろなことにチャレンジして、新しい知識を身につけて動物園に貢献します。

主なできごと

4月2日 チンパンジー「タケル」(オス)死亡
(外傷性ショック)
4月7日 冬期開園終了
4月8日 シマフクロウふ化(人工)
4月24日 インドクジャク死亡(捕獲によるショック死)
4月25日 コノハズク死亡(衰弱)
4月26日 ヤギ「はなこ」死亡(老衰)
4月27日 夏期開園日
旭川市水道局よりデザインマンホール寄贈
(デザイン あべひろし氏)



シマフクロウのヒナ



5月3日 オオコノハズクふ化(人工)11日死亡(衰弱)
5月17日 エゾタヌキ「こたろう」×「うみ」8頭出産、
育成中
5月17日 ラブラドールレトリバー「だいち」死亡
(腎不全)

5月21日 オオコノハズクふ化(自然)6月2日死亡
5月23日 ニホンザル出産
5月28日 トナカイ「麻生」出産 当日死亡
5月30日 ヒツジ「サン」死亡(誤嚥による窒息死)



6月2日 ニホンザル出産
6月4日 カルガモふ化(自然)
6月6日 ニホンザル出産
6月7日 マガモふ化(自然)
6月7日 シロフクロウ搬入
秋田市大森山動物園より
6月15日 オシドリふ化(自然)
6月15・16日 動物墨画パフォーマンス開催

編集後記

4月27日、57回目の夏期開園日を迎えた。例年より二日早い開園で準備的にはカツカツの状況でしたが、当日は天候にも恵まれ開園式には多くの来園者と子供たちの歓声で賑わいました。ゴールデンウィーク期間も珍しく晴れの日が多く、いいスタートがきれたかなと感じています。春は繁殖の季節。シマフクロウの人工ふ化やカモ類の自然ふ化、中でもエゾタヌキの誕生はうれしい出来事です。これまで度々生まれてはい

たのですがうまく育たず、調べてみると2012年に4頭成育したのが最後の記録でした。それが今回は8頭!最近は巣箱から出始め、わちゃわちゃと動く姿に癒やされています。「野生でも今どこかでこんな感じで子育てしてるんだろうなあ…いつまでも続けばいいなあ」なんて思います。今年も命の繋がりを伝えていきます。ぜひ動物たちに会いに来てください。

(中田)

最新情報は
ここでチェック!!



公式HP



Facebook



X
(旧Twitter)



Instagram



モユク・カムイ No.121 令和6年7月15日

- 発行所／旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
●発行人／田村 哲也
●表紙絵／動物墨画パフォーマンス出場校
●編集／中田 真一・中村 亮平・佐賀 真一・大西 敏文・鈴木 達也
原田 佳・上江 昌弘
●印刷／株須田製版：〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 ☎011-621-1000



飼育動物数

令和6年5月末現在

- 哺乳類 41種・285点
●鳥類 47種・272点
●は虫類 9種・ 24点
●両生類 4種・ 27点
●合計 101種・608点